“ぎふ清流国体・ぎふ清流大会”

出場チームを紹介します

『岐阜クラブ』

私たち岐阜クラブは平成24年に行われる「ぎふ清流国体」の強化指定チームとして平成20年に発足した成年男子６人制のバレーボールチームです。

現在週３回のボール練習と週１日のフィジカルトレーニングを行っています。クラブチームであるためそれぞれ違う職場で仕事をしていますが、それぞれの職場で協力をしていただき仕事とバレーを両立して岐阜国体での優勝を最終目標に頑張っています。

今後は夏の中部日本総合選手権大会・全日本クラブカップ選手権に出場し、国体までの強化を図っていきたいと思っています。

岐阜出身の選手がほとんどなので試合に限らず練習にもぜひ見学に来てください。みなさんの応援が力になります。私たちも精一杯頑張りますので温かいご声援をよろしくお願いいたします。

【問い合わせ先】総合体育館内　ぎふ清流国体・ぎふ清流大会安八町実行委員会事務局（☎ 64・5100）

“みんなで築こう　人権の世紀”

身近なことから人権について考えてみませんか

『こども』

私たちが、保育園を訪問すると園児は、大きな声で「おじいちゃん、こんにちは。おばあちゃん、こんにちは。」と無邪気でとても可愛い笑顔です。

園児たちは何を考えて何をしようとしているのか。心の思うままに行動し、言葉を発するのではないでしょうか。私たちが、こうした子どもたちとどのように向かい合って行くのが良いのだろうかと考えました。その時、脳裏に次の詩が思い浮かびました。

『こども』詩ドロシー・ロー・ノルト作（アメリカの家庭教育学者）

批判ばかりされた子どもは非難することをおぼえる。殴られて大きくなった子どもは力にたよることをおぼえる。笑いものにされた子どもはものを言わずにいることをおぼえる。皮肉にさらされた子どもは鈍い（にぶい）良心のもちぬしとなる。しかし、激励を受けた子どもは自信力をおぼえる。寛容にであった子どもは忍耐力をおぼえる。賞賛（しょうさん）をうけた子どもは評価することをおぼえる。フェアプレーを経験した子どもは公平力をおぼえる。友情を知る子どもは親切力をおぼえる。安心を経験した子どもは信頼力をおぼえる。可愛がられ抱きしめられた子どもは世界中の愛情を感じとることをおぼえる。

この詩は、人と人との結びつきの大切さ、人への思いやりなど…今の社会で、ともすれば、忘れられがちな…とても大切な要素を見事に表現していると私は思います。

いろいろな経験を積み重ねることで、ひとりの人間として改めて、人権感覚を身につけてもらう事が、大切なことであると気づかされました。

人権啓発看板が設置されました

役場庁舎東南の出入口に人権啓発看板が設置されました。

看板には、昨年実施した人権の花運動で、登龍中学校の生徒が考えた「咲かせよう笑顔の花と命の花」と国の平成 23 年度啓発活動重点目標の「みんなで築こう人権の世紀」という２つの標語が記載してあります。

【人権に対するお悩み・問い合わせ先】民生部福祉課内　人権擁護委員会事務局（内線 241）